

■柏木義門 キリスト教思想家。生涯にわたって、天皇制下に生きることの意義を問い続け、近年、改めて高い評価。

かしわぎえん

桜田門外変・1860＝

越後国三島郡の城下町与板で、浄土真宗柏木山西光寺の武家待遇住持第八代徳円の長男に生まれる。母はやう。直後に父が死去。祖母と教育熱心な母に育てられる。

打刀物が有名で、良寛の父親の出身地である与板は、肥沃な土地、信濃川河川交通に恵まれ、豪商が群出、米どころでもあった。

大政奉還・・1867＝ 7歳：家督を継ぎ、得度。

明治維新・・1868＝ 8歳：

戊辰戦争終・1869＝ 9歳：

維新で寺の財政が圧迫するなか、母がつけてくれた師について、漢文を素読、早くも、素読の師範にあげられるほどの秀才ぶりを発揮。周囲からも、住職として遇される。

明治6年政変 1873＝13歳：

佐賀の乱・・1874＝14歳：母のもとを離れ、蒲原郡水原の星野恒の塾に入門、厳しく教えられて師と仰ぐも、

初の民間工場1875＝15歳：星野の上京のため、塾が解散となり、新潟師範学校入学、

西南戦争・・1877＝17歳：経費削減のため統廃合されて、東京師範学校に転校となり、上京。成績首席並ながら教師の受け悪く、

大久保暗殺・1878＝18歳：東京師範学校小学師範科を卒業に止まり、群馬県土塩小学校に赴任。安中教会に通うようになり、

琉球処分・・1879＝19歳：三村連合して新設した群馬県細野西小学校校長に推薦され赴任、実際には教師は自分一人。

秩父事件・・1880＝20歳：そこで知り合った蔵原惟郭の紹介で、同志社英学校に入学するも、

明治14年政変1881＝21歳：学費続かず、中途退学。この間の新島襄の感化で、劇的回心、故郷を捨ててキリスト者をめざすも、

新体詩抄・・1882＝22歳：群馬県細野東小学校校長赴任。眼疾に罹り、医者から不治を宣告され、失意のどん底に。

岩倉具視没・1883＝23歳：与板大火で西光寺全焼。林鶴梁の「読項羽本紀」を読んで発奮し、安中教会聖餐式に出席して覚醒。

秩父事件・・1884＝24歳：同じ眼疾経験から助言もしてくれた海老名弾正より受洗し、同志社英学校に再入学。

内閣発足・・1885＝25歳：この年、土地の寄付を受け、西光寺が再建されたが、住職の寺政が悪く、母が苦勞して再興。

帝国大学始・1886＝26歳：徴兵令施行で悩む年下の生徒らと(興風会)を組織し演説会を開始し、奮闘。

国民之友始・1887＝27歳：{同志社文学雑誌}創刊に参加、第3号に「処女作「天国及び地獄ノ弁」を掲載。

初の対等条約1888＝28歳：この年、「教会合同問題激化、非難が集中して孤立する新島襄を支えながら、

帝国憲法公布1889＝29歳：苦学しながら普通科を卒業。新島から後事を託され、同志社予備校主任になるが、

帝国議会議始・1890＝30歳：新島襄が死去。海老名弾正の推挙で、熊本英学校校長代理として出向、

足尾鉍毒始・1891＝31歳：早くから足尾鉍毒問題を鉍害地農民の立場から論じ、支援。

大本教・・・1892＝32歳：奥村禎治郎の<不敬事件>で学校当局の処置を非として辞任。同志社予備校に復帰し、結婚。この事件を

契機に、海老名弾正とは天皇制や勅語がらみで生涯にわたって対立して行く一方、

郡司千島探検1893＝33歳：長男が誕生。この年<不敬事件>起こした内村鑑三に共鳴。井上哲次郎の「教育と宗教との衝突」に反論。

日清戦争始・1894＝34歳：この間、郷里から母を呼び、学生寮の賄いをしてもらう。日清戦争では熱烈な主戦論を展開したが、

日清戦争終・1895＝35歳：次男が誕生。学制改革で兵式体操が導入されるなど、校風は一変、

白馬会・・・1896＝36歳：同志社が徴兵猶予特典工作に失敗して経営悪化、浮田和民教頭とともに、「辞職に追い込まれ、

八幡製鉄始・1897＝37歳：「海老名弾正の後をうけて群馬県安中教会の仮牧師となり、以後、終生そこにとどまる。

尺句歌革新1898＝38歳：三男が誕生。この年、同志社綱領論争。{上毛教界月報}を創刊し、伝道を開始。

Bushidou・・1899＝39歳：前年、草刈知事の公娼復活許可に対して結成された上毛基督教婦人矯風会に徹を飛ばすなど、廢娼運動。

ピノ/国産化・1900＝40歳：四男が誕生。安中教会で最初の新島論を行い、加藤弘之と国家主義論争開始。

田中正造直訴1901＝41歳：三男が夭折。

教科書疑獄・1902＝42歳：五男が誕生。呼びかけて西毛基督教青年会が発足。「按手札を受け、安中教会正牧師となる。

日比谷公園・1903＝43歳：翌年にかけて、禁酒運動を指導。日露戦争を目前に、内村鑑三の非戦論に共鳴、

日露戦争始・1904＝44歳：長女が誕生。「軍国主義的国家観に反対する論説を発表し、戦争反対の論陣を張り、

日露戦争終・1905＝45歳：以後、日本の帝国主義化とともに起きる様々な事件や問題悉くに、果敢に論究し続けて行く。

満鉄発足・・1906＝46歳：同志社同期で親交する徳富蘆花が安中教会に連れてきた妻に授洗。

韓日暴動1907＝47歳：六男が誕生。

アヲヲ創刊・1908＝48歳：次女が誕生。母が死去して衝撃を受け、信仰告白文を多く執筆。

伊藤博文暗殺1909＝49歳：この年、安中事件。神山閩次知事の遊郭設置不許可によって、廢娼運動が決着。

韓国併合・・1910＝50歳：この年、安中付近一帯大洪水。交流していた社会主義者長加部寅吉が大逆事件関連で検挙される。

大逆事件判決1911＝51歳：長男がホノルル中央太平洋学院留学。大逆事件に衝撃受けるとともに、果敢に抗議した徳富蘆花を畏友と

する。同志社以来の盟友湯浅治郎が京都から東京に転居し、以後、安中教会礼拝に出席。

明治天皇没・1912＝52歳：天皇との情死を強いる国への抵抗、

大正政変・・1913＝53歳：七男が誕生。肺結核で茅ヶ崎南湖院に入院し、3ヶ月後に退院。

第一次大戦始1914＝54歳：長男がオペリン大学に進学。「日本の対独宣戦布告批判。組合教会の朝鮮伝道批判開始。

民本主義・・1916＝56歳：前年千葉医専に入学した次男が病臥、妻と交代で千葉と安中往復。

この間、子どもたちが学校で神社参拝を強要されることにも抵抗し続ける。

本格政党内閣1918＝58歳：長男がオペリン大学卒業、A.B.を取得し、エール大学入学。妻が死去して衝撃、初めて{月報}を休刊。

ベル仁条約・1919＝59歳：軽井沢逗留中の島田三郎を訪問し意気投合。「朝鮮で3・1独立運動勃発、朝鮮伝道への批判を強める。

大暴落・・・1920＝60歳：次男が死去。安中教会新会堂完成。この間、無教会主義者内村鑑三を徹底的に批判するようになる。

原敬首相暗殺1921＝61歳：長男がエール大学を卒業し、B.D.を取得。

水平社結成・1922＝62歳：五男が同志社専門学校神学部に進学。

関東大震災・1923＝63歳：長男が帰国し、原市教会牧師就任。「関東大震災での社会主義者、朝鮮人虐殺に抗議。須田清基の軍籍離脱

の決意を支持。

護憲三派圧勝1924＝64歳：北陸伝道旅行の途次、故郷与板の小學校で講演するも、土地を捨てた者として冷ややかに扱われる。

治安維持法・1925＝65歳：原市教会員の娘の結婚の司式を依頼され、朝鮮を旅行するも、現地の人々を理解できずと告白。

円本時代始・1926＝66歳：文部省から宗教規制法案発表されると、

金融恐慌・・1927＝67歳：徳富蘆花が死去。安中教会として宗教法案反対基督同志会に加入し、阻止活動、一旦廃案となる。

世界恐慌・・1929＝69歳：政府は改めて宗教団体法案を上程、再び廃案となった。「尊王本論」。「新島襄伝執筆の準備を進めるなか、

海軍軍縮条約1930＝70歳：内村鑑三が死去。

満州事変・・1931＝71歳：「満州事変で、宣戦布告なき戦争の開始を批判した{月報}が発禁。以後、{月報}の発禁が増える。

五一五事件・1932＝72歳：「盟友湯浅治郎が死去。自らも召喚され、教会員の尽力で不起訴になるも、茫然自失。

国際連盟脱退1933＝73歳：吉野作造が死去。国際連盟脱退も批判したが、

芥川直木賞始1935＝75歳：五男に後を任せて、安中教会牧師を辞任、

二二六事件・1936＝76歳：「発禁頻繁となり、ついに{上毛教界月報}を廃刊。以後、急に老けこむも、批判精神は健在で、

日中戦争始・1937＝77歳：海老名弾正が死去。連日のように取調べを受けながらも、教会員らによる後継誌{新生命}に無署名で書き

続けて、
健保+総動員 1938＝78歳：胃腸障害から心臓発作にいたり没した。